



BOSCH

Access Professional Edition

Video verification

ja

ソフトウェアマニュアル

目次

1	概要	4
1.1	モジュール式设计	4
1.2	サーバーおよびクライアントモジュール	4
2	全般	5
2.1	ユーザーログイン	5
3	Video Verification	7
3.1	全般	7
3.2	ビデオ機器の管理	10
3.2.1	Configurator を開く	10
3.2.2	ビデオ機器の検出	10
3.2.3	アクセス制御システムにビデオ機器を追加する	10
3.2.4	接続データの変更	11
3.2.5	ビデオ機器データの変更	12
3.2.6	ライブビデオ画像の表示	13
3.2.7	アーカイブ記録の表示	13
3.2.8	表示と処理	14
3.3	入口の作成と編集	15
3.4	ユーザー権限	18
3.5	ビデオ確認	20
3.5.1	ビデオ確認のオン / オフ	22
3.6	アラーム管理	22
3.6.1	マップビューアーとアラーム管理	23
3.7	ビデオ再生	27
3.8	ローカル記録	28
3.9	ビデオプレーヤー	29
3.10	表示と処理	30
4	UL 294 要件	32

1 概要

1.1 モジュール式設計

Access Professional Edition System (以下、「**Access PE**」) は、中小企業向けに自己完結型のアクセスコントロールを提供し、以下の幾つかのモジュールで構成されます。

- LAC Service : LAC (ローカルアクセスコントローラ - 以下、「コントローラ」) と常にコミュニケーションを取るプロセス。AMC (Access Modular Controllers) がコントローラとして使用されます。
- Configurator
- Personnel Management
- Logviewer
- Alarm Management
- Video Verification

1.2 サーバーおよびクライアントモジュール

これらのモジュールは、サーバーおよびクライアントモジュールに分けられます。

LAC サービスは常にコントローラと接続を保つ必要があります。その理由として、まずカード所有者の動き、存在、不在に関するメッセージを常に受け取るから、また新しいカードの割り当てなどのデータの変更をコントローラに送信するから、しかし主にはメタレベルのチェックを行うからです (アクセスシーケンスチェック、アンチパスバックチェック、ランダムスクリーニング)。

Configurator はサーバーでも実行される必要がありますが、クライアントワークステーションにインストールして、そこから実行することもできます。

Personnel Management および Logviewer の各モジュールは Client コンポーネントに属し、Server でも実行でき、サーバーにネットワーク接続のある異なる PC でも実行可能です。

以下のコントローラを使用できます。

- AMC2 4W (4 つの Wiegand リーダーインターフェイス) - AMC2 4W-EXT で拡張可能
- AMC2 4R4 (4 つの RS485 リーダーインターフェイス)

2

全般

2.1

ユーザーログイン

次のアプリケーションが利用可能です。詳細については、該当するユーザーマニュアルを参照してください。

**Personnel Management****Configurator****Logviewer****Map and Alarm Management****Video Verification****注記!**

クライアントからのログインは、サーバーで LAC サービスが実行されている場合のみ可能です。

クライアントのログイン

システムのアプリケーションは不正な使用から保護されています。最初の使用におけるデフォルトのパスワードは次のとおりです。

- ユーザー名 : **bosch**
- パスワード : **bosch**

ユーザー名とパスワードを入力すると、[パスワードの変更] ボタンが有効になります。誤った入力を 3 回すると、その後、しばらくしてからでないと次回のログオンが行えません。これは、[アプリケーションの起動] ボタンと [パスワードの変更] ボタンに適用されます。

上部のドロップダウンリストを使って、希望するインタラクションの**言語**を選択できます。デフォルトは、アプリケーションをインストールするのに使われた言語です。アプリケーションを再起動せずにユーザーを変更した場合、以前の言語が維持されます。そのため、ダイアログボックスが希望する言語で表示されない可能性があります。これを避けるには、Access PE に再度ログインします。

Access PE は次の言語で実行できます。

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 日本語
- ロシア語
- ポーランド語
- 中国語（中国）
- オランダ語
- スペイン語
- ポルトガル語（ブラジル）

**注記!**

機器名、ラベル、モデル、ユーザー権限スキーマなどのすべてのファシリティは、入力された言語で表示されます。同様に、オペレーティングシステムが制御するボタンやラベルは、オペレーティングシステムの言語で表示されます。

[パスワードの変更] ボタンをクリックしたら、次のダイアログでユーザー名とパスワードを入力します。

The image shows a 'Change password' dialog box with a blue title bar. It contains two text input fields: 'New password' and 'Confirmation'. Below the fields are two buttons: 'Ok' and 'Cancel'.

**注記!**

パスワードは必ず変更してください。

[アプリケーションの起動] ボタンはユーザーの権限を確認し、それに基づいてアプリケーションを起動します。システムがログインを認証できない場合、次のエラーメッセージが表示されます：「ユーザー名またはパスワードが間違っています!」

3 Video Verification

ビデオ確認を使用すると、カードと承認データをチェックすることにより、立ち入り許可を求めている人が実際にカードの所有者であることを確認できます。



注記!

少なくとも 1 つの入口でビデオ確認を有効にした (PE Configurator > [入口] > 編集する入口を選択 > [ビデオ設定] を使用) 場合は、[ビデオ確認] ダイアログを少なくとも 1 台のワークステーションで開始する必要があります。そうしない場合、**すべてのアクセス要求が拒否**されます。

ビデオシステムの設置時には、ビデオシステムをより有用で多用途にする追加のファシリティが Personnel Management で有効化されます。

関連項目

- ビデオ確認, ページ 20
- アラーム管理, ページ 22

3.1

全般

ビデオ画像表示ウィンドウは 3 種類の状態を示すことができます。(ロゴの実際の外観は使用中のソフトウェアに部分的に依存するため、下に示されているものとは異なる可能性があります。)

表示	説明
ライブ画像 / 静止画像 / 記録	選択したカメラからの画像がウィンドウに表示されます。
	ビデオ表示がオフになっているか、カメラが選択されていません。
	このビデオチャンネルに入力信号がありません。

用語の説明

- **ビデオ確認**
ワークステーションユーザーは、データベース内のカードデータと関連付けられたアーカイブ画像をライブ画像と比較して、ある人に立ち入り許可を与えるかどうかを決定できます。
- **ビデオ識別** - (Access PE ではこの機能はサポートされていません)
このタイプのコントロールには、顔 / 目のグリッド付きアーカイブ画像をライブ画像のデータと比較して、立ち入り許可を求めている人がシステムで認識されているかどうかを判断できるインテリジェントカメラを使用する必要があります。
- **ビデオ監視**
ビデオ識別やビデオ確認とは対照的に、立ち入り許可を求めている人ではなく、その人の周囲をチェックします。これを実現するには、1 台以上のカメラでエリア全体を示し、ワークステーションユーザーがライブまたはアーカイブ画像によってそれを評価する必要があります。

セットアップ

カメラをアクセスコントロール用の追加のセキュリティ対策として使用する前に、まずビデオ機器を設置し、カメラに付属のソフトウェアを使用して構成する必要があります。これには、デジタルビデオレコーダー (DVR) 機能の構成が含まれます (存在する場合)。

Access Professional Edition のビデオコンポーネントを使用するには、**Bosch Video SDK** (CD に入っています) をインストールする必要があります。

1. Access PE Configurator の [ビデオ機器] ページを使用して、アクセスコントロールに使用するカメラを選択して有効化できます。

2. 入口を構成する際は、カメラを識別カメラまたは前面および背面監視カメラとして定義できます。いずれかのカメラをアラームおよびログブックカメラとして構成することもできます。
3. [人事管理] ダイアログで、ワークステーションユーザーにビデオ機器に関する権限を割り振ることができます。
4. 少なくとも 1 つの入口についてビデオ確認機能を構成する場合、[ビデオ確認] ダイアログを永続的に表示するためのワークステーションを 1 台セットアップする必要があります。
5. Logviewer に加え、[アラーム管理] ダイアログを使用してアラーム状況に直接切り替えることができます (必要に応じてビデオパネルを使用できます)。

ビデオコンポーネントの種類、使用できる場所、および目的

- ビデオパネル

場所	Personnel Management > 
目的	<ul style="list-style-type: none"> - 最大 4 台のカメラからライブ画像を同時にフィールドする。 - 各カメラの画像およびビデオシーケンスを個別に保存するアーカイブ機能。 - 特定の画像に、ログブックメッセージをトリガーする "関心地点" (POI) のマークを付ける。

- ビデオ機器

場所	Configurator > 
目的	<ul style="list-style-type: none"> - ネットワークカメラを検出して使用する。

- 入口をビデオ用に構成する

場所	Configurator > 
目的	<ul style="list-style-type: none"> - ビデオ確認の有効化 / 無効化 - 識別および監視カメラの構成 - アラームおよびログブックカメラの定義

- 記録したビデオの再生

場所	[スタート] > [プログラム] > [Access Professional Edition] > [Bosch Video Player]
目的	<ul style="list-style-type: none"> - ローカルに保存したビデオ記録の再生。

注：このアプリケーションが必要なのは、記録を Bosch Video SDK 用の特殊な vxx 形式で保存した場合だけです。MPEG 形式の記録には、任意のプレーヤーを使用できます。

- ビデオ確認

- 場所 Personnel Management > 
または
[スタート] > [プログラム] > [Access Professional Edition] > [ビデオ確認]
- 目的
- 識別カメラからライブ画像への切り替え。
 - 監視カメラへの切り替え。
 - データベース画像との視覚的な比較。
 - 立ち入り許可の付与 / 拒否。
 - 静止画像のローカル保存。

- アラームアプリケーション

- 場所 Personnel Management > 
または
[スタート] > [プログラム] > [Access Professional Edition] > [Alarm Management]
- 目的
- 特定のアラーム用の特殊なビュー。
 - ビデオビューでの使用（必要な場合）。
 - 画像およびビデオシーケンスを保存するアーカイブ機能。

- 機器の状態

- 場所 Personnel Management
- 目的
- ライブ画像用に構成済みの入口カメラに切り替える。
 - 選択した入口の立ち入り履歴の表示を有効化 / 無効化する。

- ビデオ機器

- 場所 Personnel Management
- 目的
- ライブ画像用に構成済みのカメラに切り替える。

- ビデオ再生

- 場所 Logviewer > 
- 目的
- 入口でのアラームに関するビデオ記録を表示する。

- 画像およびビデオシーケンスを保存するアーカイブ機能。

3.2 ビデオ機器の管理

3.2.1 Configurator を開く

Configurator を開くには、3 つの方法があります。

オプション 1



1. デスクトップの Configurator アイコン  をダブルクリックします。
 - Configurator が開きます。

オプション 2

1. **Access PE Personnel Management** アプリケーションを開きます。
2. **Access PE Personnel Management** アプリケーションのメニューバーで  をクリックします。
 - Configurator が開きます。

オプション 3

1. **Access PE Personnel Management** アプリケーションを開きます。
2. メニューバーの [ツール] を選択します。
3. ドロップダウンリストから [**Configurator の実行**] を選択します。
 - Configurator が開きます。

3.2.2 ビデオ機器の検出

前提条件：

- すべてのビデオ機器をインストールして設定します。
- Configurator を開きます。

1. Access Professional Edition Configurator のメニューバーで  をクリックします。
2. [**新規機器を参照**] ボタンをクリックして、ビデオ機器を検索します。
 - 検索中はボタン名が [**検索の終了**] に変わり、検索をキャンセルできます。
 - Bosch Video SDK によってサポートされるすべてのビデオ機器が検出され、[Configurator] ダイアログの右下にあるリストフィールドに表示されます。

関連項目

- *Configurator を開く*, ページ 10

3.2.3 アクセス制御システムにビデオ機器を追加する

1. Configurator を開きます。
2. Access Professional Edition Configurator のメニューバーで  をクリックします。
3. [**新規機器を参照**] ボタンをクリックして、ビデオ機器を検索します。
 - 検索中はボタン名が [**検索の終了**] に変わり、検索をキャンセルできます。
 - Bosch Video SDK によってサポートされるすべてのビデオ機器が検出され、[Configurator] ダイアログの右下にあるリストフィールドに表示されます。
 - ビデオが有効化されると、有効化ボタンは無効になります。

4. [Configurator] ダイアログの右下エリアにあるリストフィールドからビデオ機器を選択します。
5. [機器の有効化] ボタンをクリックします。
 - 選択したビデオ機器が [Configurator] ダイアログの左側のリストフィールドに移動します。

**注記!**

緑色のチェックマークが付いている機器のみを移動できます。パスワードで保護されたリストエントリ（赤色の十字が付いている）は、[接続データの変更] ボタンを押してアクセス可能にする必要があります。

**注記!**

転送可能な機器の数はライセンスによって制限されている場合があります。

関連項目

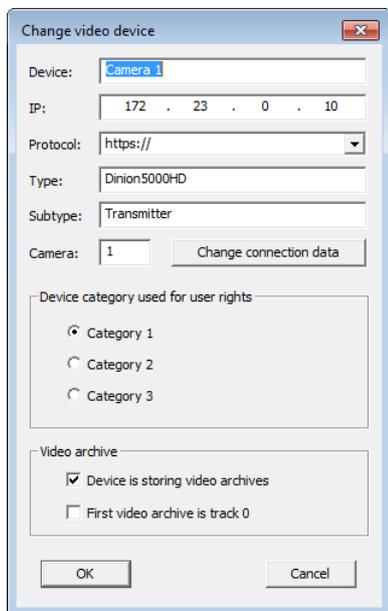
- Configurator を開く, ページ 10

3.2.4**接続データの変更****オプション 1**

1. Configurator を開きます。
2. Access Professional Edition Configurator のメニューバーで  をクリックします。
3. [新規機器を参照] ボタンをクリックして、ビデオ機器を検索します。
 - 検索中はボタン名が [検索の終了] に変わり、検索をキャンセルできます。
 - Bosch Video SDK によってサポートされるすべてのビデオ機器が検出され、[Configurator] ダイアログの右下にあるリストフィールドに表示されます。
4. [Configurator] ダイアログの右下エリアにあるリストフィールドからビデオ機器を選択します。
5. [接続データの変更] ボタンをクリックします。
 - [接続パラメータの変更] ダイアログボックスが開きます。
6. ユーザー名とパスワードを入力します。
 - 許可されるユーザーアカウントを使用していることを確認します。
7. [OK] をクリックします。

オプション 2

1. Configurator を開きます。
2. [Configurator] ダイアログの左側のリストフィールドにあるビデオ機器をダブルクリックします。
 - 個々のビデオ機器を識別するには、エンコーダ機器エントリ（番号、名前、アドレス、カメラ、タイプ）を参照してください。
 - [ビデオ機器の変更] ダイアログボックスが開きます。
3. [接続データの変更] ボタンをクリックします。
4. ユーザー名とパスワードを入力します。
 - 許可されるユーザーアカウントを使用していることを確認します。
 - ビデオ機器のアクセスデータは、その機器独自のソフトウェアによってのみ変更できます。
5. [OK] をクリックします。



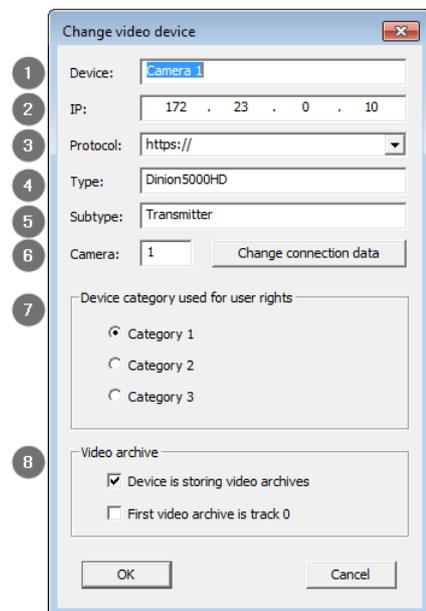
関連項目

- *Configurator* を開く, ページ 10

3.2.5

ビデオ機器データの変更

1. *Configurator* を開きます。
2. Access Professional Edition *Configurator* のメニューバーで  をクリックします。
3. [ビデオ機器の変更] ダイアログボックスを開くには：
 - [Configurator] ダイアログの左側のリストフィールドにあるビデオ機器をダブルクリックします。
 - [Configurator] ダイアログの左側のリストフィールドの上にある緑色のプラスアイコンをクリックします。
4. 下記の可能性に従って、ビデオ機器データを入力または変更します。
5. [OK] をクリックします。



1	ビデオ機器の名前を入力または変更します。
2	ビデオ機器の IP アドレスを入力または変更します。
3	ビデオ機器はデフォルトでは https プロトコルによって接続されます。 選択されたビデオ機器が https プロトコルをサポートしていない場合は、ドロップダウンリストの [なし] を選択します。
4	ビデオ機器のタイプを入力または変更します。
5	ビデオ機器のサブタイプを入力または変更します。
6	接続データを変更します。
7	3 つのユーザー権限カテゴリの 1 つを割り当てて、選択したユーザーだけが特定のカメラを操作できるようにします。
8	ビデオをアーカイブする方法に応じて、チェックボックスを選択またはクリアします。

関連項目

- *Configurator* を開く, ページ 10

3.2.6

ライブビデオ画像の表示

1. *Configurator* を開きます。
2. Access Professional Edition *Configurator* のメニューバーで  をクリックします。
 - [Configurator] ダイアログの左側のリストフィールドからビデオ機器を選択します。
 - [ビデオの表示] ボタンをクリックします。

関連項目

- *Configurator* を開く, ページ 10

3.2.7

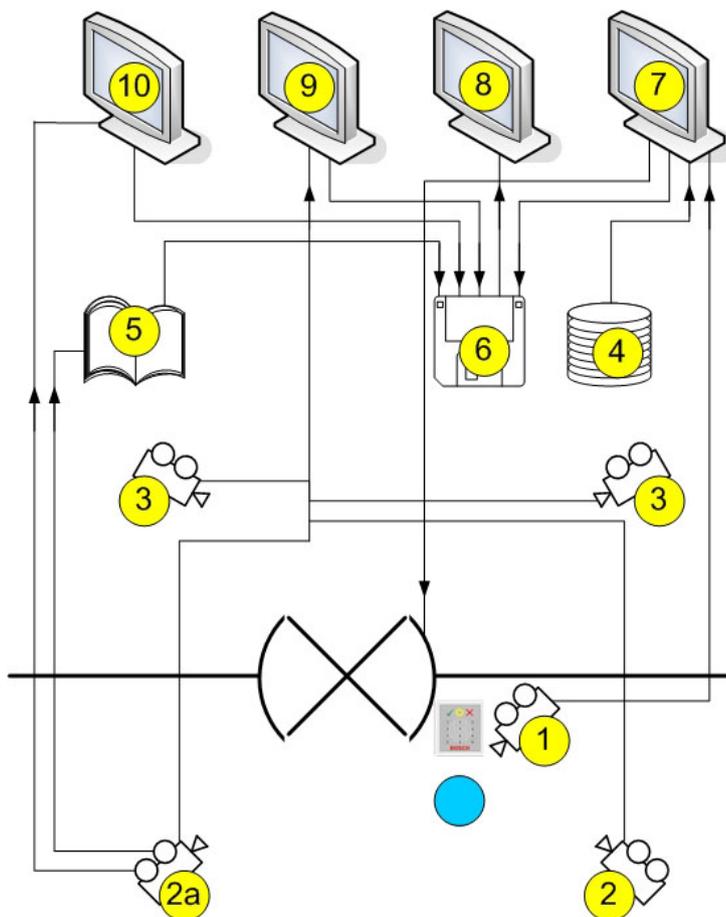
アーカイブ記録の表示

1. *Configurator* を開きます。
2. Access Professional Edition *Configurator* のメニューバーで  をクリックします。
3. [Configurator] ダイアログの左側のリストフィールドからビデオ機器を選択します。
4. [再生の表示] ボタンをクリックします。
 - [再生の開始] ダイアログボックスが開きます。
5. 記録を再生するには、開始する時刻を定義します。
6. [OK] をクリックします。

関連項目

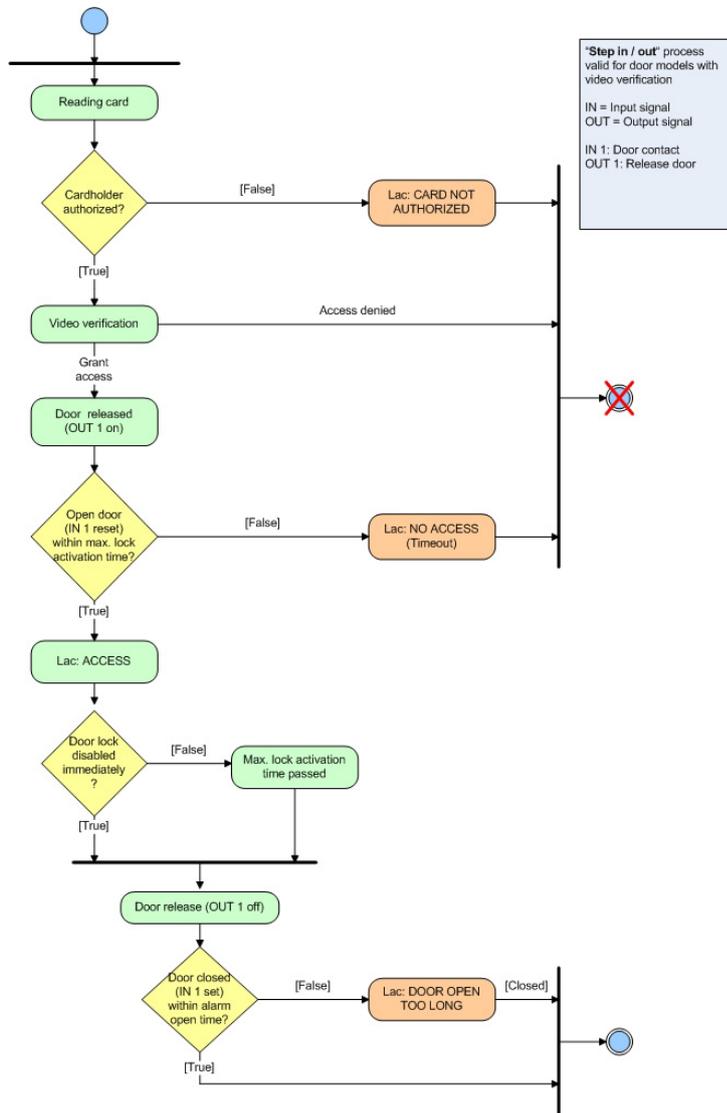
- *Configurator* を開く, ページ 10

3.2.8 表示と処理



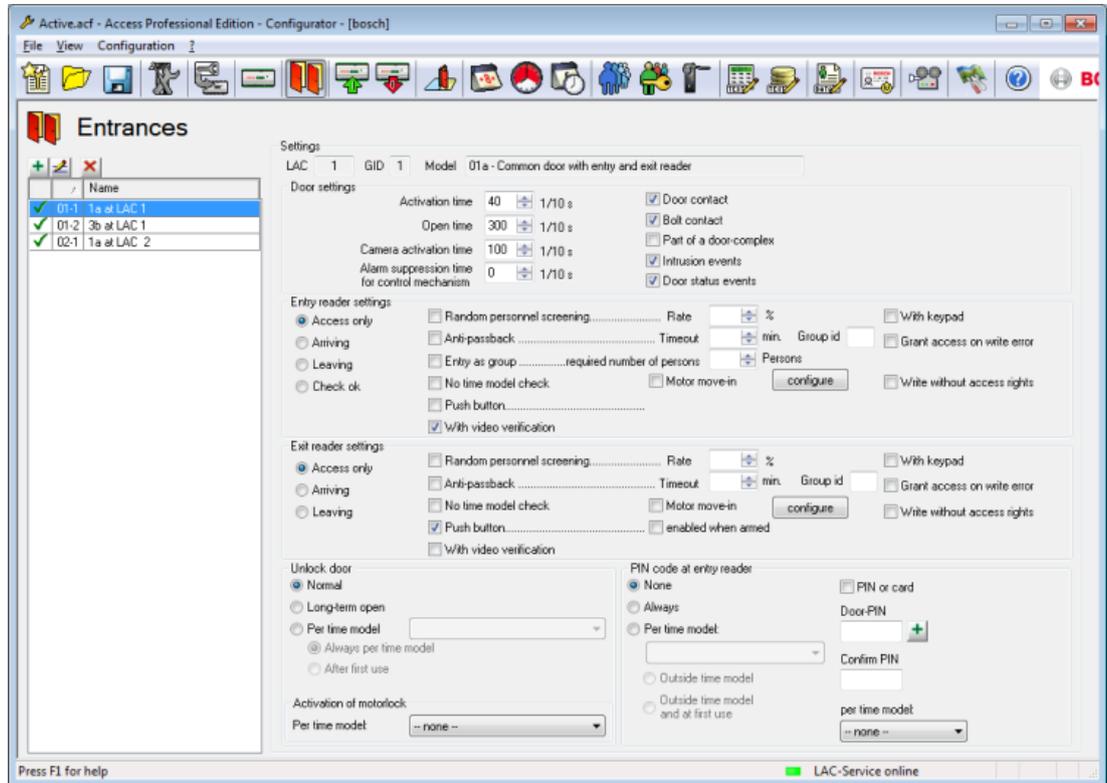
1 =	識別カメラ アクセス要求を受信すると、このカメラからの画像が [ビデオ確認] ダイアログ (7) に表示されます。
2 =	監視カメラ - 背面エリア
2a =	アラームおよびログブックカメラ カメラ 1、2 または 3 のいずれかを選択
3 =	監視カメラ - 前面エリア
4 =	データベース ビデオ確認 (7) では、識別カメラ (1) のライブ画像の反対側に比較用のデータベース画像が表示されます。
5 =	ログブック アラームおよびログブックカメラ (2a) を構成した場合、アラームに関連する画像が保存されます。
6 =	ローカルハードディスク / 保存メディア ローカルファイルは、ビデオ確認 (7) 、ビデオパネル (9) および [アラーム管理] (10) ダイアログのほか、ログブックメッセージ (5) の画像からも保存できます。ビデオ記録 (.vxx 形式) のファイルは、Bosch Video Player (8) で表示できます。

7 =	ビデオ確認 - 識別カメラ (1) からのライブ画像とデータベース画像 (4) の画像比較。 - ダイアログ内のボタンによるドアの解錠 / 施錠。 - 表示された画像のローカル保存 (6) 。
8 =	Bosch Video Player ローカルに保存した .vxx 記録 (6) はこのダイアログで表示できます。
9 =	ビデオパネル - このビューでは最大 4 台のカメラからの画像を同時に表示できます。 - 各カメラについてローカル記録 (6) が可能です。
10 =	アラーム管理 アラームおよびログブックカメラ (2a) を構成した場合は、関連する入口からのアラームメッセージに関するビデオ画像も表示できます。これらの画像のローカルコピー (6) を作成し、ビデオプレーヤー (8) で表示できます。



3.3 入口の作成と編集

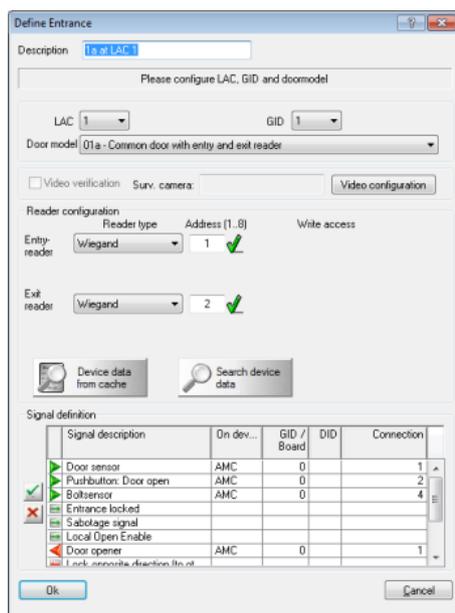
入口作成ダイアログには、カメラをこの入口用にセットアップするためのオプションも備わっています。



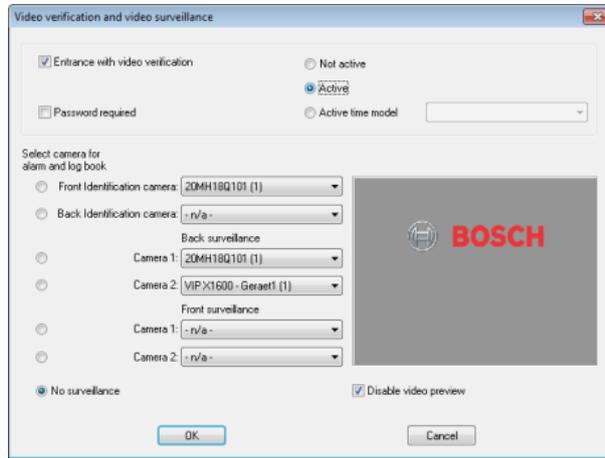
ビデオ確認用のオプションを有効にして設定するには、[ビデオ設定] ボタンを押したときに開く特別なダイアログで変更を行ったりその他の設定を構成したりできます。手順は次のとおりです。

- [ビデオ確認あり] チェックボックスを有効にする
- [入口] の下で、選択した LAC をダブルクリックする

次の画面が表示されます。



[ビデオ設定] ボタンをクリックして [設定] 画面を開始します。



ビデオ確認

ダイアログの上部はビデオ確認設定の構成に使用します。この入口でアーカイブ画像とライブ画像の比較による追加のチェックを実行するには、[ビデオ確認ありの入口] チェックボックスを選択します。

この確認は、特定のユーザー権限を構成することによって不正なアクセスから保護できる特別なダイアログで実行されます。[パスワードが必要です] チェックボックスを選択すると、[ビデオ確認] ダイアログに特別な保護を施すことができます。このダイアログが起動すると、通常どおりにユーザー権限がチェックされますが、ユーザーのパスワードも要求されます。

[アクティブではありません]、[アクティブ] および [アクティブな時刻モデル] オプションを使用して、ビデオ確認を抑制するか、継続的に有効にするか、一部の時間で有効にできます。

注記!



ビデオ確認がアクティブな場合は、画像比較ダイアログ (Personnel Management > ) を少なくとも 1 台のワークステーションで開始する必要があります。そうしない場合、すべてのアクセス要求が拒否されます。

カメラ設定

入口ごとに最大 5 台のカメラを構成して、各カメラを 3 種類の機能用にセットアップできます。ここで選択して割り当てることができるのは、[ビデオ機器] ダイアログで有効にされたカメラだけです。

1. 識別カメラ

このカメラは、立ち入り許可を求める人の顔画像を伝達するように設置されるため、一般にはビデオ確認の目的でも使用されます。

隣のリストフィールドを使用して適切なカメラを割り当ててください。

このカテゴリで定義できるカメラは 1 台だけです。

2. 背面監視

2 台のカメラを背面エリアの監視用に構成できます。これにより、立ち入り許可を求めている人が脅迫されていないかどうか (識別カメラでは気づかない) を判断できます。

3. 前面監視

このカメラカテゴリには最大 2 台の機器を割り当てることができます。ドアの後ろのエリアを監視することにより、何者かが本当にドアを通過したかどうか、それは誰かといったことに加え、該当する場合は別の人がその後について入ったかどうかを確認できます。

**注記!**

適切なカメラを選択しやすくするため、右側のウィンドウにあるリストフィールドで選択したカメラからのライブ画像を表示できます。

この機能は、**「ビデオプレビューの無効化」** チェックボックスを選択することによって無効にできません。

これらのカメラのいずれかを**アラームとログブック用のカメラ**として指名するには、関連するカメラの横にあるオプションを選択します。アラーム処理、および対応するログブックメッセージでは、このカメラからの画像が表示されます。このカメラに **DVR 記録**がある場合は、後で**ログブックダイアログ**からアクセスできます。

この機能が不要な場合は、**「監視なし」** オプションを選択して無効化してください。

3.4**ユーザー権限**

ビデオアプリケーション用のユーザー権限を、次のように制限したり割り当てたりできます。

ユーザー権限	説明
人物のユーザー権限	
アラーム確認	ユーザーは 「アラーム管理」 ダイアログにアクセスして受信アラームを処理できます。
ビデオ確認	ユーザーは 「ビデオ確認」 ダイアログにアクセスして、立ち入り許可を求めている人のライブ画像をデータベースに保存された画像と比較できます。
ビデオ機器用のユーザー権限	
カテゴリ 1	ユーザーは有効になっているカテゴリのカメラのライブ画像を表示できます。複数のカテゴリを選択できます。
カテゴリ 2	
カテゴリ 3	
ビデオ機能用のユーザー権限	
ライブビデオ	ユーザーはライブ画像を表示できます。
アーカイブ	ユーザーは保存された記録にアクセスできます。
エクスポート / レコード	ユーザーはライブ画像や記録をローカルに保存できます。

Personnel data and authorizations

Personnel Data | **Access Authorizations** | **User Rights** | **Additional Data**

Username

User-administrator

Password

Confirmation

Type of user

No rights

User

User-administrator

User rights for persons

<input checked="" type="checkbox"/> View personnel data	<input checked="" type="checkbox"/> Change authorizations
<input checked="" type="checkbox"/> Edit personnel data	<input checked="" type="checkbox"/> Alarm_Map Management
<input checked="" type="checkbox"/> Change location	<input checked="" type="checkbox"/> Video verification

User rights for configurator

Configuration of system

User rights for door management

Open / lock door (long-term)

User rights for video devices

Category 1

Category 2

Category 3

User rights for video functions

Live video

Archive

Export / record

User rights for logviewer

View own messages

View all messages without personal data

View all messages

OK Abbrechen Hilfe

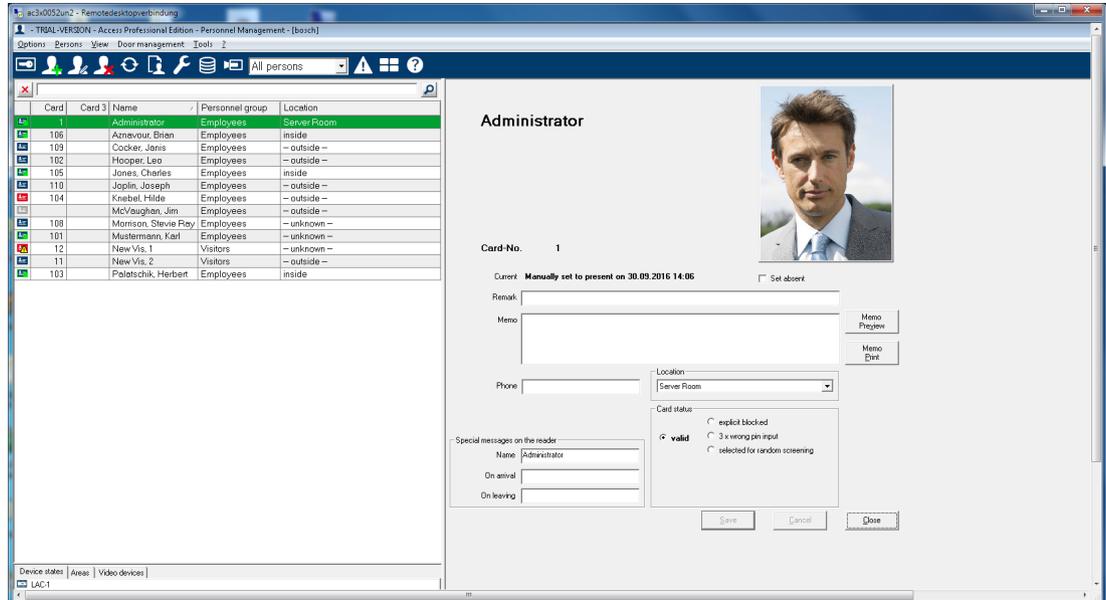
3.5

ビデオ確認

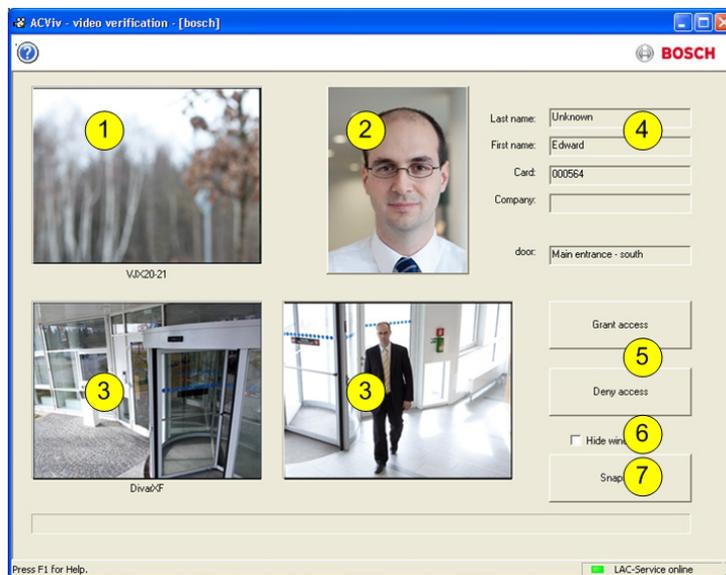
ダイアログの説明



Personnel Management で ボタンを押して、アプリケーションを起動します。



現時点でアクセス要求がない場合、ダイアログにはデフォルトのページが表示されます。許可された人物が入口でカードをスキャンすると、ダイアログは関係するカメラのビューに切り替わります。ワークステーションのユーザーが別の活動に携わっているときにアクセス要求があると、「ビデオ確認」ダイアログが最前面に表示されます。



1 =	識別カメラ - 立ち入り許可を求めている人のライブ画像を伝達します。
2 =	データベース画像 - ライブ画像との比較のために表示されるアーカイブ画像。
3 =	監視カメラ - 背面ビューを示すカメラが最初に表示されます。ドアが解錠されると、表示は次に前面ビューカメラに切り替わります。
4 =	人事データ - スキャンされたカード番号についてデータベースに保存されているデータが表示されます。

5 =	アクセス権の付与 / アクセスの拒否 - 当該のドアを解錠または施錠するためのボタン。
6 =	ウィンドウを非表示 - ビデオ確認が正常に完了した後でダイアログを閉じます。ダイアログは、次にアクセス要求が行われたときに最前面に戻ります。
7 =	スナップショット - 3つのカメラビューすべての静止画像をローカルに保存します。

要件

ライブ画像とアーカイブ画像を比較することによって実行されるこのチェックを有効にするには、次のファシリティが必要です。

- カード所有者の画像がデータベースに保存されている。
 - 立ち入り許可を求めている人の顔画像を作成できるようにカメラが設置されている。
 - 立ち入り許可を求めている人の後ろのエリアを記録する最大 2 台のカメラ（オプション）。
 - ドアを通過するエリアを記録する最大 2 台のカメラ（オプション）。
 - ドア設定
 - [ビデオ確認ありの入口] としてマークします。
 - ビデオ確認を [アクティブ] に設定します。
 - 機器を識別カメラとして使用するよう選択します。
 - オプション - 背面または前面エリアを監視するその他のカメラ。
 - 少なくとも 1 台の常時有人ワークステーションで、**Video Verification** アプリケーションがインストールされて起動しています。
- これは、複数のワークステーションで同時に実行できます。ただし、処理の重複や矛盾を避けるため、受信したアクセス要求は 1 台のワークステーションにのみ送信されます。

許可された人物のアクセス手順

1. 人物がカードをスキャンする
 - カードデータがチェックされる
 - 承認がチェックされる
2. **Video Verification** アプリケーションが接続される
使用可能で構成済みである場合は次の情報が表示される
 - 左上：識別カメラからのライブ画像
 - その右側：カード所有者のアーカイブ画像
 - その右側：カード所有者のデータ - 姓、名、カードおよび会社に加え、その人物が待機中の入口
 - 左下：背面エリア用の最初の監視カメラからのライブ画像
 - その右側：背面エリア用の 2 番目の監視カメラからのライブ画像
3. ワークステーションユーザー
 - ライブ画像がアーカイブ画像と一致することを確認し、監視カメラの記録をチェックします。
 - 比較とチェックの結果に応じてアクセスを許可 / 拒否します。
4. **Video Verification** アプリケーション
 - ドアが解錠されると、監視カメラからの下の 2 つの表示は次に前面エリアを監視するカメラに切り替わります。この画像は、ドアが閉じられるまで画面に表示されます。



注記!

表示されたカメラ画像の静止画像をいつでも何個でもローカルに保存できます。[スナップショット] ボタンを押すと、各ビデオの画像が保存されます。

ダイアログの有効化

ビデオ確認ダイアログを起動した後、デフォルトの表示に切り替わります。この状態のとき、データの編集やダイアログの処理を行うことはできません。ビデオ確認用に構成されて有効化された入口で、許可された人物が立ち入り許可を求めると、設置済みのカメラの画像とデータベースからの対応するデータが表示されます。

要求が出されたときにワークステーションで別のアプリケーションを使用しており、[ビデオ確認]ダイアログが背面に隠れていた場合は、この時点でダイアログが自動的に最前面に表示されます。アクセス要求の処理が完了すると、ダイアログビューはデフォルトに切り替わりますが、最前面に残ります。

この設定を希望しない場合は、[ウィンドウを非表示] オプションを選択して、各確認プロセスの後でダイアログを自動的に最小化できます（タスクバーにアイコン化します）。また、このオプションでは新しい要求を受信するたびにダイアログが最前面に表示されます。

3.5.1

ビデオ確認のオン / オフ

（機器ステータスリストにある）入口 / リーダーのコンテキストメニューには、[ビデオ確認の無効化] という機能もあります。

これにより、たとえばアクセス要求処理を一時的な短縮化することができます。逆に、構成を変更せずにビデオ確認を迅速に有効化することもできます。

ビデオ確認をオフにすると、コンテキストメニュー内の対応するエントリにチェックマークが付けられます。

この機能は、構成データでビデオ確認を有効化した入口にのみ使用できます。

ビデオ確認の有効化 / 無効化は LAC サービスによって制御されます。情報がすべてのワークステーションに配布されるため、どのシステムからでもこの設定を変更できます。

3.6

アラーム管理



このダイアログは [Personnel Management] ビューで ボタンを押すことによって開始できます。

Card	Card 3	Name	Personnel group	Location
1		Administrator	Employees	Server Room
108		Arnevor, Brian	Employees	inside
109		Cocker, Denis	Employees	- outside -
102		Hooper, Leo	Employees	- outside -
105		Jones, Charles	Employees	inside
110		Joplin, Joseph	Employees	- outside -
104		Kriebel, Heidi	Employees	- outside -
		McVaughan, Jim	Employees	- outside -
108		Morrison, Steve Ray	Employees	- unknown -
101		Mustermann, Kadi	Employees	- unknown -
12		New Vis. 1	Visitors	- unknown -
11		New Vis. 2	Visitors	- outside -
103		Palatchik, Herbert	Employees	inside



注記!

アラーム処理タスクを確実に実行可能にするには、このダイアログを常に少なくとも 1 台のワークステーションで実行している必要があります。

ログブックとは対照的に、ここには [アラーム] カテゴリのメッセージだけが表示されます。

[アラーム] カテゴリのメッセージを受信すると、[アラーム管理] ダイアログが実行場所のワークステーションで最前面に表示されるため、メッセージを素早く処理できます。メッセージはダイアログが開始された各ワークステーションに表示され、それぞれのワークステーションで処理できます。監視カメラをアラームおよびログブックカメラとして構成した入口からアラームメッセージが出された場合は、関係するメッセージを選択したときにそのカメラのライブ画像が表示されます。

ツールバーのボタンを押すと、静止画像 () またはライブ画像のビデオ記録 () がローカルに保存されます。ローカルコピーの保存と名前設定の詳細については、「ローカル記録, ページ 28」を参照してください。

ワークステーションユーザーは、修理作業を委託したり、さらに検査したり、セキュリティサービスに通報したりすることにより、アラームメッセージに対応できます。

ツールバーの  ボタンを押すことにより、選択したメッセージに関するビデオ表示をオフにできます。ただし、別のメッセージを選択すると、ビデオ表示は自動的に再び有効化されます。処理済みまたは処置が不要なアラームメッセージは、[アラームの確認] ボタンを押すことによってリストから削除できます。確認したメッセージは、[アラーム管理] ダイアログが実行中であるすべてのワークステーションでリストから削除されます。

3.6.1

マップビューアーとアラーム管理

Date	LAC / PC	Reader / Login	Location (floor) / program	No.	Message	Cert. No.	Last name	First name	Company
13.03.2017 12:18:18	LAC-1	access reader	Access point	02	Not authorized	000001	Akmalov		
13.03.2017 12:17:30	LAC-1	access reader	Access point	23	Card unknown, V.09 Ca. 00:00000 No. 2722607757				
13.03.2017 12:17:22	LAC-1	access reader	1st floor right	81	Reader locked				

1. マップツリー
2. 有効な場所マップ
3. マップからのデバイスコントロール、コントロールはマップに表示されます
4. イベント情報を含むアラームリスト (ビデオを含む)
5. ステータスの概要と制御要素を含むデバイスツリー
6. ライブ画像

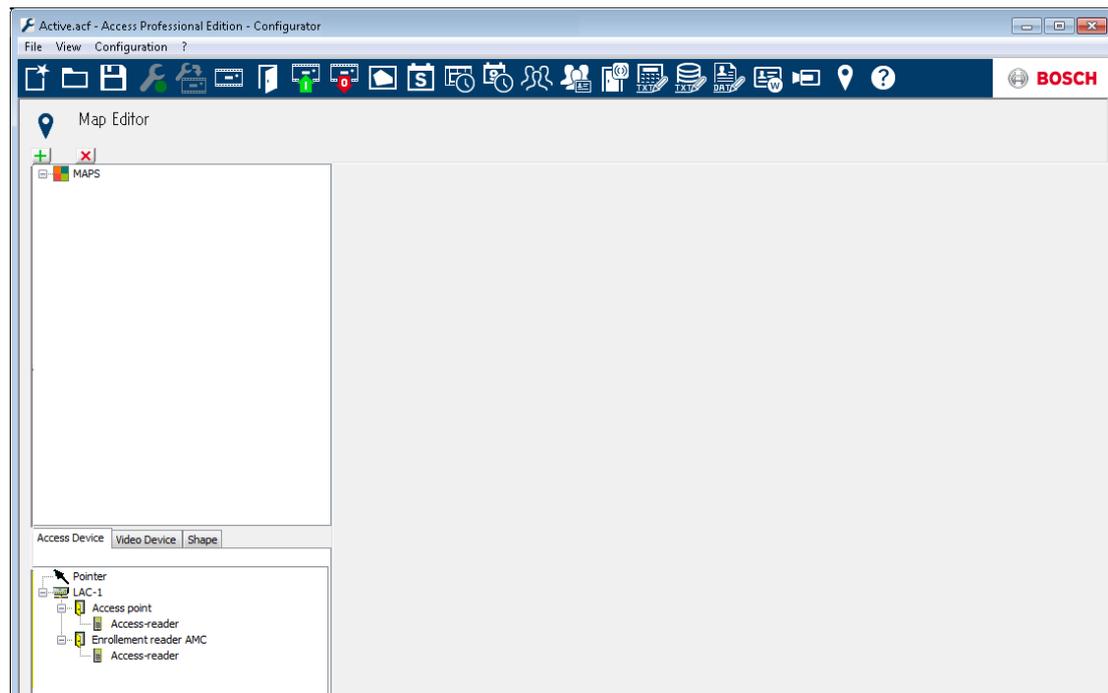
Mapviewer の機能 :

- 簡単なナビゲーションのためのホームマップ
- ハイパーリンクによるフォトビューとフロアプランとの間のナビゲーション
- 最大 3 レベルのデバイスツリー構造のナビゲーション
- 統合アラームリスト付きのアラーム用インタラクティブグラフィカルマップ
- マップおよびデバイスツリーからのライブビューとドアコントロール
- システムあたり 128 マップ
- マップあたり 64 機器
- マップあたり 64 ハイパーリンク
- マップあたり最大 2 MB
- マップビューアーは .bmp、.jpg、.png の標準画像フォーマットを使用します

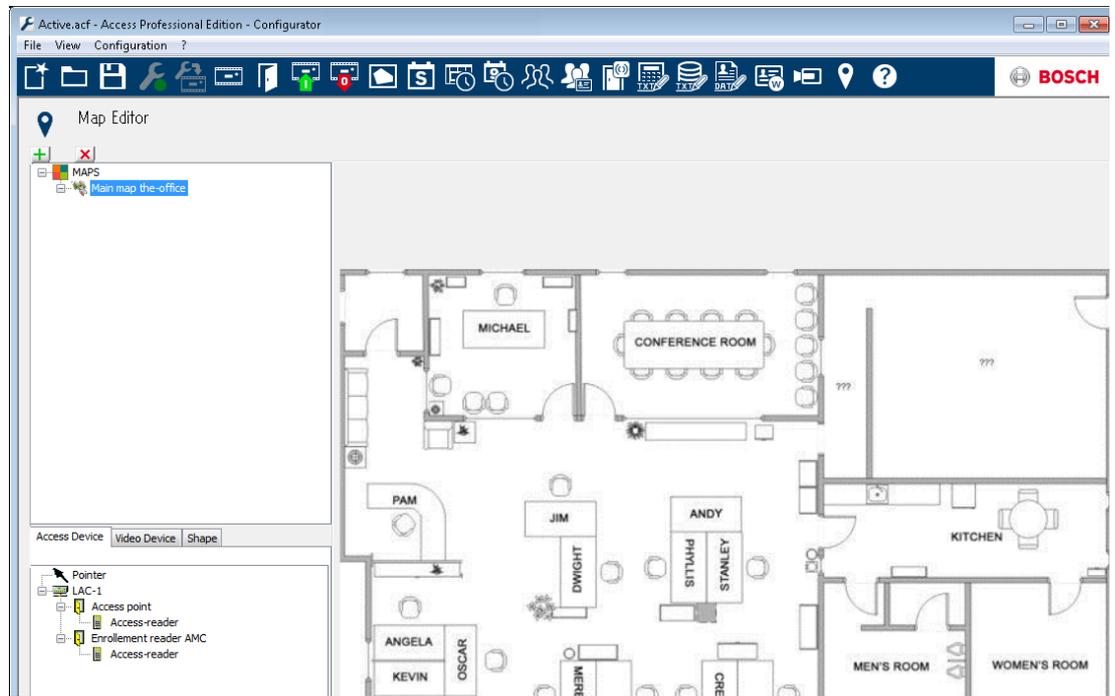
3.6.1.1

マップの構成

Map Editor の開始

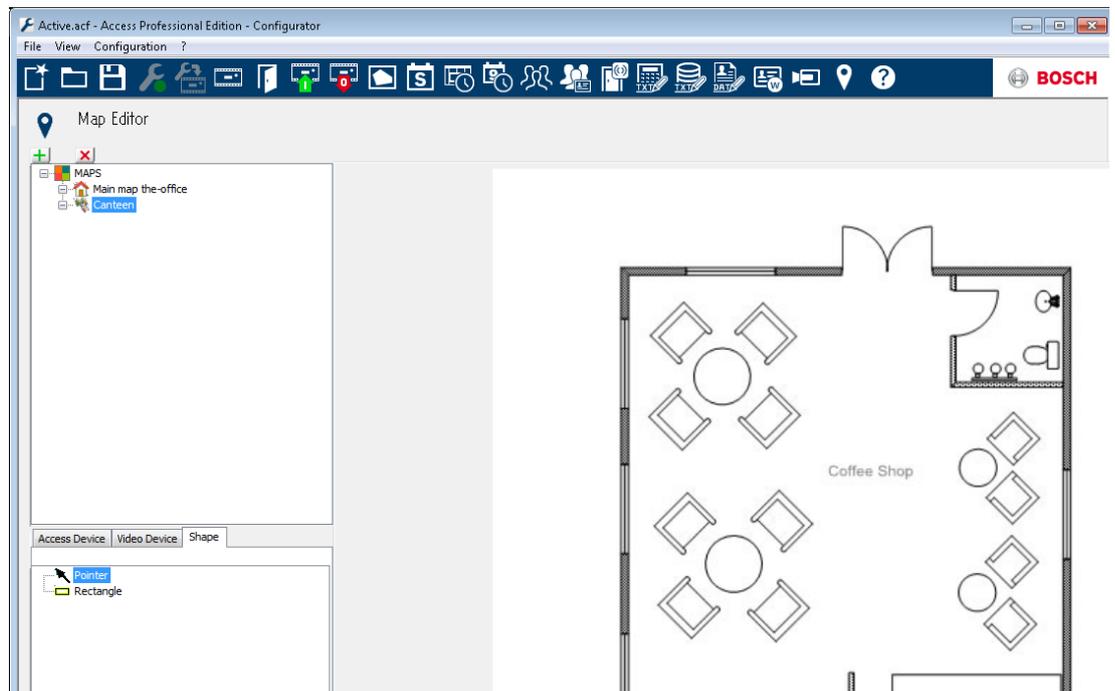


 ボタンをクリックしてマップを追加します。

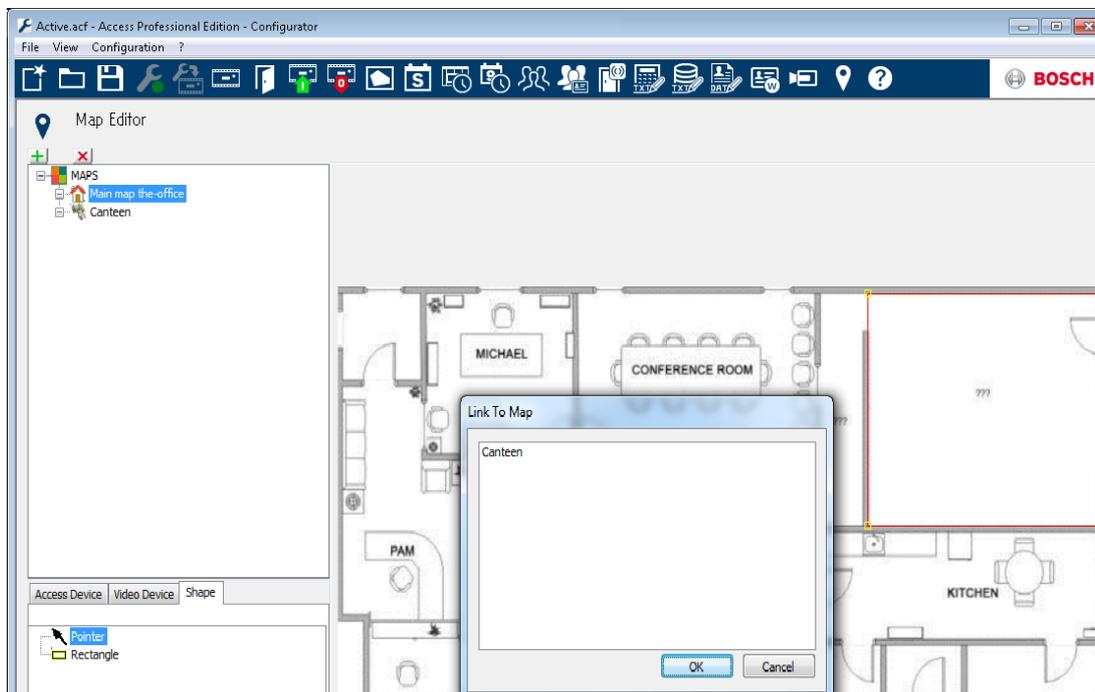


マップがダイアログに表示されます。

- オプションとして、このマップを**ホームマップ**として設定します。マップツリーに食堂などの詳細ビューを追加します。



- 新しい【**食堂マップ**】をメインマップに関連付けるには、【**シェイプ**】タブで【**長方形**】を選択します。
- 詳細ビューとして表示するメインマップの部分に長方形を置きます（下の例では赤い長方形として表示）。
- 【**マップにリンク**】ディスプレイで、それぞれの詳細ビューを選択します。この例では「食堂」です。

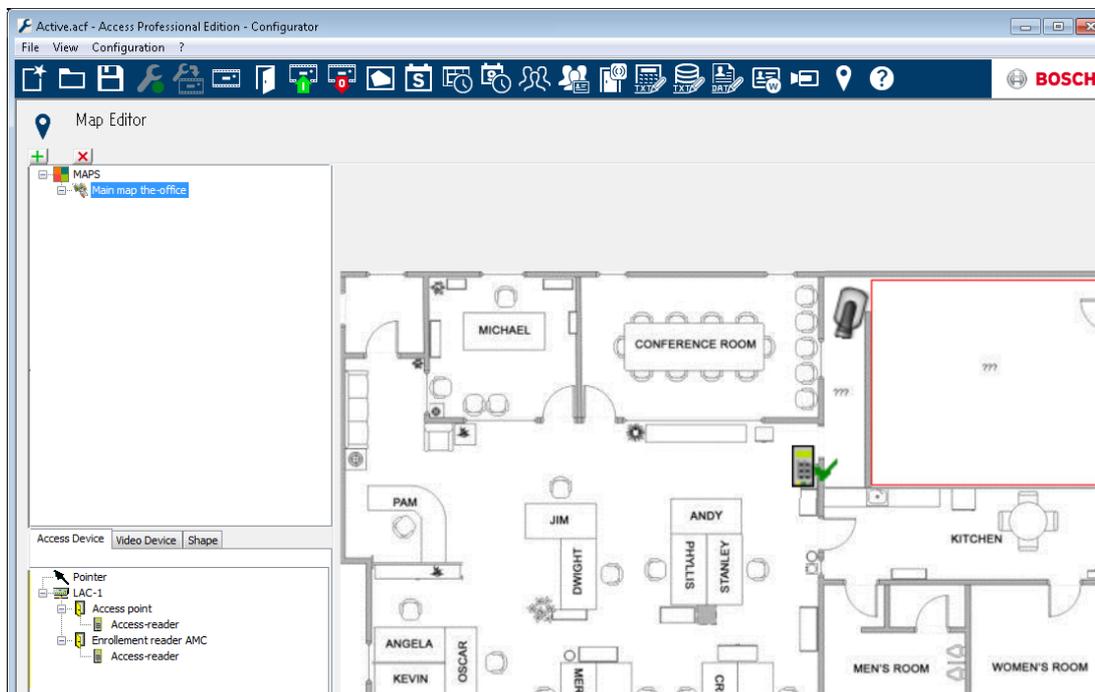


3.6.1.2

マップへの機器の追加

「機器」タブを選択して、機器をマウスでドラッグしてマップに追加します。下の例では、次の機器が追加されています。

- 1つのアクセスポイント
- 1つのリーダー
- 2つのカメラ



- マップの機器をクリックして、マウスボタンを押したままにすることでリサイズできます。
- デバイスをクリックして、マウスのスクロールホイールを使用して回転できます。

機器タイプ	コントロール要素
	ドア
	リーダー
	カメラ

機器タイプ	アラーム
アクセスポイント (入口)	
	ドアが承認なしで開けられました
	ドアの開放時間が長すぎました
	(すべてのリーダーアラームも入口アラームとして反映されます*)
リーダー	リーダーエラー
	
カメラ	なし

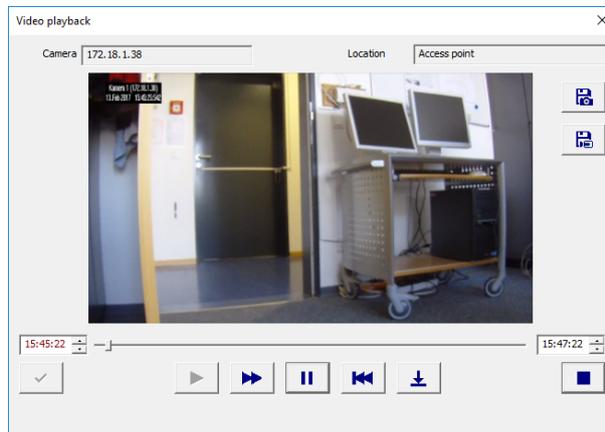
*) これらのアラームイベントはユーザーによってカスタマイズできます。つまり、ユーザーは [AcConfig] > [イベントログ] メッセージを使って任意のイベントをアラームイベントにできます (2 列目をダブルクリックするとアラームが発生します)。

3.7

ビデオ再生

入口用に監視カメラを構成した場合、ログブックダイアログではこの入口に関するすべてのメッセージに  のマークが付けられます。ビデオ機器構成によっては、これは選択した監視カメラからのビデオシーケンスがメッセージの発生時刻から使用可能であり、再生できることを意味します。

カメラ識別でメッセージを選択すると、ツールバーの  ボタンが有効化されます。このボタンを押すと [ビデオ再生] ダイアログが開きます。



ビデオ再生

[ビデオ再生] ダイアログを開くと、デフォルトではアラームが出された 20 秒前の部分から再生が開始し、120 秒後に終了します。

設定されている開始点とシーケンスの期間は、アラームが出されたときに構成できます。このダイアログを操作するときは次の点に注意してください。

- 進行状況表示は、記録が設定した期間内のどこまで進んでいるかを示します。
-  調整可能なフィールドにより、表示するビデオシーケンスの期間の始めと終わりを設定できます。
- ✓ 設定した開始時刻と終了時刻は、このボタンを押して確認したときにのみ有効化されます。
- ▶ 一時停止ボタンで中断したビデオシーケンスを再開します。高速モードが有効である場合は、再生速度を下げます。
- ▶▶ 高速モードービデオシーケンスを早送りします。
- || 一時停止ー表示を中断して静止画像を生成します。
- ⏮ シーケンスの始めまでジャンプして再生を再開します。
- ⏵ 開いたビデオ記録に関するアラームが出された時刻までジャンプします。
注：これは、アラームの時刻が設定した期間内にある場合にのみ可能です。
- [ビデオ再生] ダイアログを閉じます。

3.8

ローカル記録

静止画像とビデオの記録

アクセスコントロールダイアログで表示されるビデオシーケンスは、設定済み監視カメラが接続されたビデオ記録機器から取られています。機器の保存容量に応じて、最も古い記録は最新の記録によって上書きされるときに削除されます（循環バッファ）。

特定のセクションを保存するには、個々の画像またはビデオのローカルコピーを保存できます。デフォルトのインストールパスを使用している場合、画像とビデオは C:\BOSCH\Access Professional Edition\PE\Data\Video に保存されます。



ボタンを押すと、JPG 形式の静止画像が **<機器名>_yyyyMMddhhmmssttt.jpg** として保存されます。

(y= 年、M= 月、d= 日、h= 時、m= 分、s= 秒、t= 1000 分の 1 秒)。



ボタンを押すと、現在実行中のシーケンスの記録が開始し、再び押すとシーケンスが終了します。ビデオ記録のローカルコピーは画像と同じように名前が付けられ、**.vxx** または **.mpeg** 形式で保存されます。**.vxx** 形式は、標準的な市販アプリケーションではビデオとして表示できません。これらのローカルコピーを表示するには、付属の **Bosch Video Player** を使用してください。

関心地点 (POI) の現在のビューの静止画像を保存するには、 ボタンを押します。**_POI** が次のファイル名の先頭に追加されます: **_POI <機器名>_yyyyMMddhhmmssttt.jpg**。

(y= 年、M= 月、d= 日、h= 時、m= 分、s= 秒、t= 1000 分の 1 秒)。

マーカーとしてログブックメッセージも作成されます。

Bosch Video Player

静止画像はほとんどすべての画像ビューアプログラムやインターネットブラウザで開くことができますが、ビデオ記録は特殊な形式であり、**Bosch Video Player** が必要です。



注記!

.mpeg 形式で保存したビデオシーケンスは、任意のプレーヤーを使用して表示できます。

このダイアログは意図的にシンプルになっており、ビデオ再生フィールドの横に [ファイルを開く] および [開始/停止] という 2 つのボタンがあるだけです。

[ファイルを開く] を押してデフォルトのビデオ記録保存場所 (C:\) を参照し、必要なファイルを見つけます。

ビデオファイルを選択すると、そのパスがビデオプレーヤーに表示されます。選択したファイルは、[開始] を押すことによっていつでも表示できます。ビデオが再生中の間、[開始] ボタンは再生を中断できるように [停止] に変わります。

3.9

ビデオプレーヤー

関係するビデオ機器の構成と保存容量に応じて、ビデオカメラ記録は特定の期間にわたって保存されますが、保存限度に達すると上書きが行われます。

特定のシーケンスや画像をより長い期間にわたって保存するには、静止画像とビデオ記録をローカルに保存できます。

ライブ画像と記録は、Personnel Management の **ビデオパネル** (ライブ画像のみ)、ログブックの [ビデオ再生] ダイアログ (記録のみ)、および [アラーム管理] ダイアログ (記録のみ) で表示する際に **.jpg** 形式 (画像) や **.vxx** (または **.mpeg**) 形式 (ビデオ記録) で保存できます。

静止画像はほとんどすべての画像ビューアプログラムやインターネットブラウザで開くことができますが、ビデオ記録は特殊な形式であり、**Bosch Video Player** が必要です。他のすべての Access PE アプリケーションと同じように、これは [スタート] > [プログラム] > [Access Professional Edition] から開くことができます。



注記!

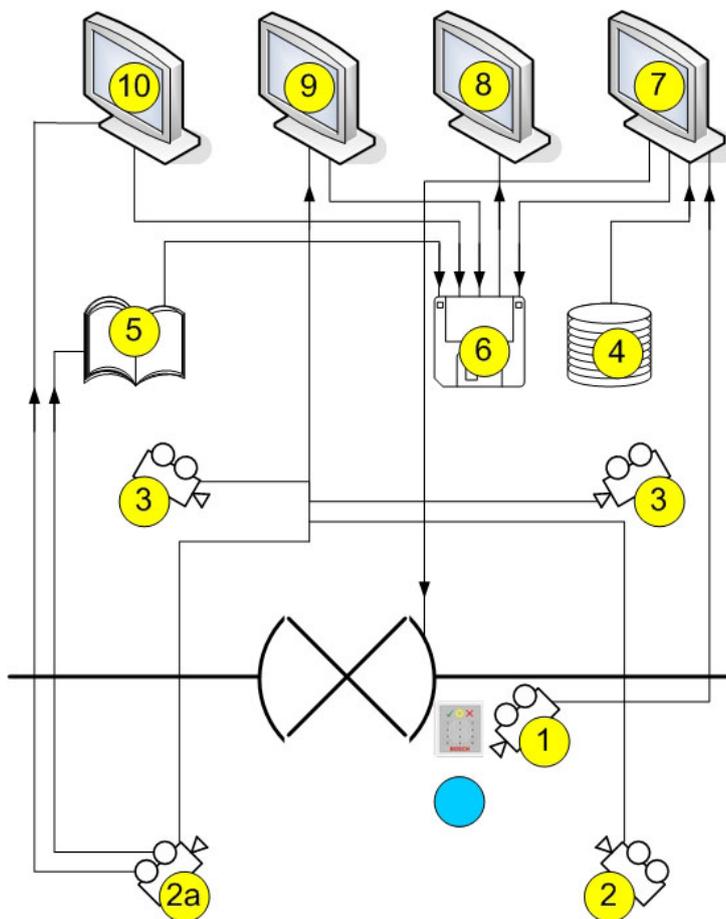
.mpeg 形式で保存したビデオシーケンスは、任意のプレーヤーを使用して表示できます。

このダイアログは意図的にシンプルになっており、ビデオ再生フィールドの横に [ファイルを開く] および [開始/停止] という 2 つのボタンがあるだけです。

[ファイルを開く] を押してデフォルトのビデオ記録保存場所 (C:\) を参照し、必要なファイルを見つけます。

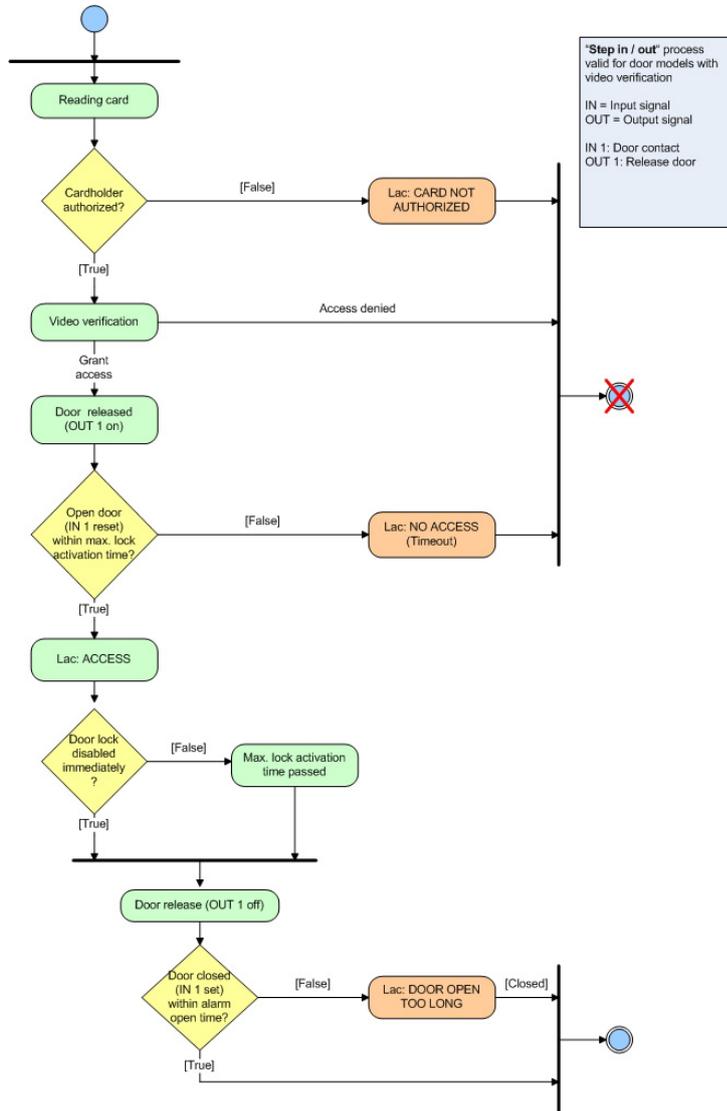
ビデオファイルを選択すると、そのパスがビデオプレーヤーに表示されます。選択したファイルは、[開始] を押すことによっていつでも表示できます。ビデオが再生中の間、[開始] ボタンは再生を中断できるように [停止] に変わります。

3.10 表示と処理



1 =	識別カメラ アクセス要求を受信すると、このカメラからの画像が [ビデオ確認] ダイアログ (7) に表示されます。
2 =	監視カメラ - 背面エリア
2a =	アラームおよびログブックカメラ カメラ 1、2 または 3 のいずれかを選択
3 =	監視カメラ - 前面エリア
4 =	データベース ビデオ確認 (7) では、識別カメラ (1) のライブ画像の反対側に比較用のデータベース画像が表示されます。
5 =	ログブック アラームおよびログブックカメラ (2a) を構成した場合、アラームに関連する画像が保存されます。
6 =	ローカルハードディスク / 保存メディア ローカルファイルは、ビデオ確認 (7)、ビデオパネル (9) および [アラーム管理] (10) ダイアログのほか、ログブックメッセージ (5) の画像からも保存できます。ビデオ記録 (.vxx 形式) のファイルは、Bosch Video Player (8) で表示できます。

7 =	ビデオ確認 - 識別カメラ (1) からのライブ画像とデータベース画像 (4) の画像比較。 - ダイアログ内のボタンによるドアの解錠 / 施錠。 - 表示された画像のローカル保存 (6) 。
8 =	Bosch Video Player ローカルに保存した .vxx 記録 (6) はこのダイアログで表示できます。
9 =	ビデオパネル - このビューでは最大 4 台のカメラからの画像を同時に表示できます。 - 各カメラについてローカル記録 (6) が可能です。
10 =	アラーム管理 アラームおよびログブックカメラ (2a) を構成した場合は、関連する入口からのアラームメッセージに関するビデオ画像も表示できます。これらの画像のローカルコピー (6) を作成し、ビデオプレーヤー (8) で表示できます。



4 UL 294 要件

以下の Bosch モデルカードリーダーは、UL によって Bosch の APE-SW ソフトウェアシステムとの互換性が評価されました。

- LECTUS secure 1000 WI
- LECTUS secure 4000 WI
- LECTUS secure 5000 WI

UL によって評価される機能：

- 26 ビット Wiegand フォーマットリーダー
- AMC2 コントローラ：
 - APC-AMC2-4WCF
 - API-AMC2-4WE
 - API-AMC2-8IOE
 - API-AMC2-16IOE
- APE-SW は補足監視機器

UL によって評価されない機能：

- ビデオ確認システム
- マップおよびビデオ確認を備えたマップビューアーとアラーム管理
- ビデオプレーヤー
- Badge Designer
- Delta 1200 シリーズ
- Rosslare ARD-1200EM シリーズ
- LAC コントローラ
- LACi コントローラ
- APC-AMC2-4R4CF コントローラ
 - BG 900 リーダーインターフェイスプロトコル
 - L-BUS リーダーインターフェイスプロトコル
- Security System IDS - 作動/作動解除
- エレベーター用
- テキスト
- 盗難警報機用



Bosch Security Systems B.V.

Torenallee 49

5617 BA Eindhoven

Netherlands

www.boschsecurity.com

© Bosch Security Systems B.V., 2019